



ぱるつうしん

発行元: 社福)藤沢育成会 サービスセンターぱる
〒251-0013 神奈川県藤沢市小塚592
電話: 0466-28-0909 FAX: 0466-28-0959
法人ホームページ: <http://www.f-ikusei.or.jp>

平成28年12月号



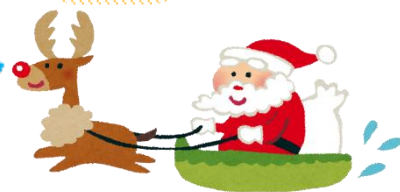
写真が趣味の利用者さんが撮った1枚の夜景写真。

その方曰く、「月の写真」だそう。日常の景色だって、ファインダー越しにのぞくと、いつもと違う一面を映し出すのかもしれない。

貴方にはどう映りますか？

Photo by TAKUYA.N

☆Merry Christmas☆



もくじ

P2.3 特集

「自分たちで声を出し、語り合おう！」

P4 ヘルパー部署

P5 グループホーム部署

P6 子ども支援部署

P7 職員投稿 / 出産報告

P8 波乗り所長のおしゃべりタイム/

ありがとう



今年も残すところ、10日程となりました。

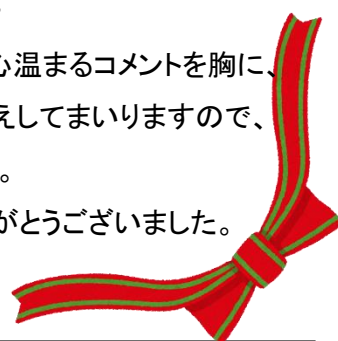
皆が待ちに待った(?)クリスマスがもうすぐやってきます。ぱるでも、グループホームや子ども支援部署等で、クリスマス会が予定されています。

4月より新メンバーを加えて、お届けしてきたぱるつうしんですが、12月号を皮切りに、1月新春特別号、2月号と、怒涛の毎月発行が続きます。お楽しみに♪

皆さんから頂いたたくさんの心温まるコメントを胸に、2017年も盛りだくさんでお伝えしてまいりますので、どうぞよろしく願い致します。

2016年もお読み頂き、ありがとうございました。

広報係'16 一同



特集 自分たちで声を出し、語り合おう!

～知的障害をもつ本人たちが相模原事件について語る会を開く～

11月13日、横浜市の神奈川県社会福祉会館で知的障害をもつ10人の方と支援者が集まり、相模原の津久井やまゆり園で7月26日に起きた障害者の殺傷事件について、語り合う集会が開かれました。

横浜市に住む、知的障害をもつ当事者で本人活動のリーダーとして活躍している、奈良崎真弓さんが呼びかけ、県内の当事者や支援者が賛同・協力して、開かれたものです。

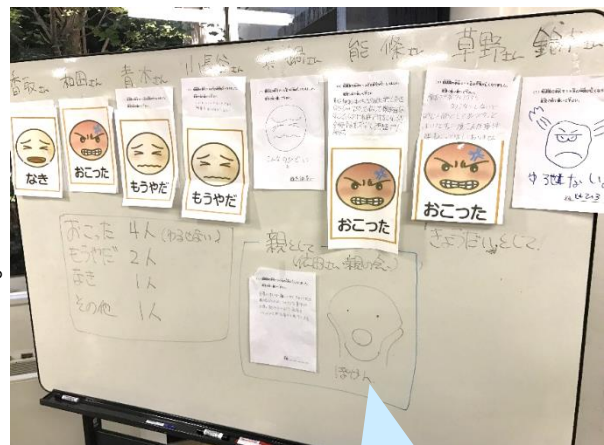
奈良崎さんが司会進行を務めるワークショップ形式で集会は進行了まりました。まずは楽しくリラックス体操から始め、自己紹介を兼ねて、自分の人生で楽しかったこと、そして、つら



会の一場面。リラックスする為に、皆で体操しています。左から5番目が、奈良崎さん。

かったことを参加者が語り合いました。相模原の事件について語る場面では、「おこった」「もうやだ」「なき」などの顔文字が入ったカードを用意し、なるべく分かりやすい形で自分の気持ちを表現してもらおう工夫をしました。「おこった」のカードを使った人がとても多くて、改めてこの事件への怒りの大きさを感じました。

藤沢育成会のグループホーム「ハイツリール」の利用者、能條拓矢さんもこの集会に参加し、この事件に対する自分の気持ちをたくさん語ってくれました。



泣きたい バカにしないで 同じ人間なんだよ

■ワークショップでの参加者の主な発言

- みんな同じ人間なのに、なぜ殺されなければいけないのか。差別されたようで怒っています。傷つけられ悲しい。泣きたい気持ちです (香取裕華さん、40歳)
- 障害者施設の前職員がなぜ「障害者はいらぬ」と言ったのか。障害のある仲間をバカにしないで。同じ人間として扱ってほしいです。悲しい。こんな事件はもういやだ (草野真由美さん、45歳)
- なんで障害者が殺されなければいけないんだ。絶対許せない。罪をつくなってほしい (能條拓矢さん、48歳)
- 仲間が殺される事件なんてなくなるといい (青木理香さん、40歳)
- 何の罪もないのに、障害があるだけで殺すのは、ずるじゃないか。どうして世の中に障害者はいらぬんだ。言ったんですか。みんな同じ人間なんだよ (真鍋晃一さん、47歳)
- 絶対許せない。障害者を殺して何が面白んだと言いたい (鈴木智裕さん、24歳)
- 二度と事件を起こしてほしくない。障害者をバカにしないで (小長谷英高さん、57歳)



事件に対する気持ちを表すためのイラストを描ける奈良崎真弓さん(左)と参加者ら=横浜市

相模原殺傷事件 思い語るワークショップ

奈良崎さん以外の参加者は初めて公の場で事件について語った。これまで話聞いているものから、表現しているのかわからなかったという。イラストは奈良崎さんのアイデアで、話さない人のためにA4の紙を用意した。怒りや悲しさを表現する「おこった」や「もうやだ」として話せた。トホとした様子だった。奈良崎さんは「いろんな障害者がいることを知ってもらいたい。差別のない社会につながる。DVDを通じて、全国の仲間がこうしたワークショップを開くヒントになればいい」と話している。(森本紀)

相模原市の障害者施設で7月に19人が刺殺された事件を受けて、障害者自身が思いを語るワークショップが13日、横浜市内で開かれた。犠牲者と同じ障害者がある本人の思いを伝えることで、二度と同じような事件を起こさない社会にしたいという思いがある。今後継続し、記録をDVDや書籍にする計画だ。

障害ある私たちが声発信

様々な表情カードを使って、事件への想いを表現しました。



朝日新聞よりの

知的障がいのある本人達の経験ワークショップ
『知的障がいのある自分たちの経験を話し合おう』

一相模原障害者施設の事件のこー

よ 呼びかけ人 ならさき まゆみ
 奈良崎 真弓

今年7月26日に相模原の障害者施設でとても悲しい事件がありました。私は自分の仲間19人が亡くなったことが大きなショックで涙が止まらなかったです。容疑者が手紙に書いていた「障がい者は生きていてもしかたがない」という言葉をテレビで見て、心が壊れました。

私はいろいろなことを考えました。私は自分が本当に障がいを持って生まれて来て良かったことが、何だかわからなくなりました。楽しいことや辛いことがこれからもあると思うけど、これも生きる意味だと思いました。

私はこれからも障がいを持った一人としていろんな人と出会いや経験をしていきたいです。同じ障がいの仲間とこれまでのこと、相模原の事件のこと、そしてこれからの夢や目標のことを話し合ひましょう。

(呼びかけ人：奈良崎真弓)



ならさき まゆみ
奈良崎 真弓さん

横浜市在住。本職は現在、花屋の店員さんだが、知的障害者本人活動のリーダーとして、世界的に活躍している。アジア諸国(タイ、ミャンマー、マレーシア、韓国、中国等)の仲間と交流し、今年10月にアメリカで開かれた国際育成会連盟世界会議では、日本の当事者を代表して相模原事件についての意見発表を行った。

人間として見てほしい

時代の正体 障害者殺傷事件考

和名で語る障害者

◆和田裕樹さん(26) 一 横浜市

「相模原で起きたのは、無理やり殺したことも許せないよなあ」選んだのは、怒った顔。「相模原の事件で19人が亡くなったのはショックだった。なんで障害者が殺されなければいけないんだ！絶対に許せない問題だ」パン店で働いていた時、いじめがあった。それでも13年間仕事を続けた。結局その店は辞めることにしたが、父親ともうまく関係が築けなかった。何度ショックを受けても、相談するきっかけはあまりないと感じてきた。「まあ、誰かに聞いてほしかったかな」いじめで悩んだ人、相談できずつらい思いをした人、事件にショックを受けた人。自分と同じように思っていた人に出会えたこともうれしかった。「みんなの人生を

◆和田裕樹さん(26) 一 横浜市

「19人が亡くなったのは、無理やり殺したことも許せないよなあ」選んだのは、怒った顔。「相模原の事件で19人が亡くなったのはショックだった。なんで障害者が殺されなければいけないんだ！絶対に許せない問題だ」パン店で働いていた時、いじめがあった。それでも13年間仕事を続けた。結局その店は辞めることにしたが、父親ともうまく関係が築けなかった。何度ショックを受けても、相談するきっかけはあまりないと感じてきた。「まあ、誰かに聞いてほしかったかな」いじめで悩んだ人、相談できずつらい思いをした人、事件にショックを受けた人。自分と同じように思っていた人に出会えたこともうれしかった。「みんなの人生を

神奈川新聞(2016年12月8日発刊)。左下の映っている方が、能條さんです。

🌸ヘルパー部署🌸

ヘルパーサービスは、基本的に1対1でサービスを行います。天候や公共交通機関のトラブル、その他様々な状況においても、利用者さんに対し、安全に安心して過ごしてもらうような対応が求められます。その為、スタッフを始め登録ヘルパーさんの支援スキル向上を目的として、年間通して様々な研修を企画・運営しています。

今回は、今年行った研修を振り返りながら、どんな取り組みを行っているのか紹介させていただきます。

4月：差別解消法

新生ぱるとなって最初の研修では、志賀新所長から、4月1日から施行された差別解消法について説明がありました。

すべての人にとって、“暮らしやすい”地域を目指そう！と、その為に自分たちが出来ることは何なのか、改めて考える機会となりました。



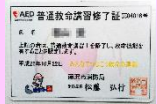
6月：応急手当、AED

消防署の方を招いて、応急手当について、またAEDの使い方について学びました。

いざという時焦らずに必要な行動をとれるようにと、



参加者みんな真剣に取り組んでいました。研修終了後には、「普通救命講習修了証」が授与されました。



7月：感染症、熱中症

食中毒の危険が高まる夏に向けて、保健所の方に、感染症・食中毒等について講義を頂きました。

“手洗い”は感染予防法として広く知られている方法ですが、いつもの洗い方でちゃんと汚れが落ちているのかのチェックも行いました。予想以上に汚れが残っている事を知り驚きでした。

目で見て分かる、研修となりました。



9月：リスクマネジメント

保険会社の方を招いて、施設・事業所のリスクマネジメントについて事例を交えながら教わりました。

「やるべき事をやれば防げる事故」が起きない為に設備や関わり方をどうしたらいいか、考えさせられました。

10月：ストレスマネジメント

“対人援助”を行う職業では、ストレスとどう付き合うかが支援の質に大きく関わってきます。

自分のストレスを知り、そのストレスとの上手な関わり方について、意見を出し合いました。

11月：障がい理解（自閉症）

この研修は座学ではなく、自閉症の方の世界を感じてみるということで、「音の洪水(たくさんの音が聞こえてくる中で指示を出されたら聞こえるかな?)」、「曖昧な言葉(ちょっと待っててってどれくらい?)」等の体験型研修を実施しました。

自分で実体験することで、より知る事が出来たのではなかとと思います。



12月：車いす体験

サービスで、車いすの介助をする機会がありますが、ヘルパーが車いすに乗る機会にはほぼありません。

そこで、実際に車いすに乗って街に出掛け、乗っている人の気持ちになってみよう！という体験を行いました。

お店で商品を取ろうとしても、見えないし届かない。坂道がこんなに怖いとは…。すごく速く感じる！と、たくさんの気づきがありました。



◇ グループホーム部署 ◇

10月13日(木)に※1藤沢市住まいと暮らし連絡会主催のグループホーム・ケアホーム世話人を対象とした「障がい者グループホームにおける防災対策」の研修が藤沢合同庁舎にて行われました。黒崎ホームからも多数の世話人、支援員が参加しました。今回は研修の内容を報告します。

午前は「障害者グループホームにおける防災対策」日頃の対策と災害時の障害者支援」についての講義を受けました。その中で、福祉避難所協定(福祉避難所協定とは事前に指定を受けた施設は、災害発生時に市町村からの要請に基づき福祉避難所を設置・運営し、日常生活上の支援及び相談、必要な当直者の配置、急変に対応できる体制を確保すること。)を当てにしない」という話が印象的でした。あくまで二次的避難所であり、物資の供給は受けられるが人的支援として実際の人手の確保が考えられないとのことでした。

実際、熊本地震では被災前に福祉避難所協定を150カ所程度と締結していましたが、地震発生から1週間経った段階で福祉避難所を利用できたのは36人程度でほとんどが高齢者の方でした。原因としては、準備のできていない所で開けても大変だろうということ、どこが福祉避難所かホームページに挙げなかったそうです。

本来、福祉サービス事業所を開けることで福祉避難所として機能するはずがされませんでした。前もって、事業継続計画(BCP)の準備が重要とされています。“BCPとは災害など発生した時にグループホーム・ヘルパー・

こども支援など重要業務が中断しない。また事業活動が中断した場合でも重要な機能を再開させ業務中断のリスクを最小にするために普段から事業継続について準備しておく計画”のことを指します。

また、①必要人員②利用者状況の把握と避難方法の確保③最低必要な備蓄品が防災対策として必要とのことでした。

午後は「地震が起きた場合どう対応してどのように過ごすのか」を考えて発表しました。実際に水道や電気を使わないで1日過ごしてみた事業所があるという話も聞け参考になり、有意義なグループワークでした。大きな災害がいつ起きてもおかしくない現在、グループホームの会議の場合などで避難方法・災害対策を確認して共有しなければならぬことを再認識しました。

現在、黒崎ホームではプレホスピタルレコード(各利用者の名前・生年月日・既往歴などの個人情報を入力した紙)、療育手帳、保険証などを入れたファイルを緊急時にすぐ持ち出せるように各ホームに準備しました。これからも緊急時に何が起きても困らないように取り組みを行っていきたくと考えています。

※1藤沢市住まいと暮らし連絡会とは藤沢市に住む障害者が、安心して地域で暮らせる住まいについて、地域の問題の解決の為に、様々な機関と連携や情報の共有を図り、市民からの相談に応じ、「藤沢市障がい者総合支援協議会」等への提言につなげる会のことです。

グループホームの
愛情クッキング♪

グループホームの食卓 (黒崎ホーム 松本世話人:1年目)

夕食の1品:芋煮

材料、里芋・鶏もも肉・しらたき・しめじ・えのき・油揚げ・白葱・板麩

作り方、下処理をした里芋と鶏肉は一口大。その他食べやすい大きさに切る。

少量のゴマ油で里芋と鶏肉を炒めるのがポイント♪

だし汁を入れて灰汁を取り、他の材料を入れて煮る。

塩・酒・醤油で味付けする。





はぐに新しいクラスがオープンしました



★子ども支援部署★

みなさん、こんにちは。今回は、はぐの新しいクラス開所についてとプリズムの外出プログラムについてご紹介します。

“はぐ”は、未就学児対象の少人数(3〜6人)クラスです。学習姿勢の意識・お友達との関わり方・ことばのやりとり・身体全体を使った活動を取り入れています。水曜年長クラスに加えて、年少中クラスとして、10月に火曜クラス、12月に金曜クラスがオープンしました。金曜クラスでは、ゲームや創作をとおしてお友達と物の貸し借りを促すプログラムを行いました。イラストや文字をヒントに、「かして」「いいよ」「あとでね。」等、お友達とことばでのやりとりを行なっています。お友達への伝え方を知るきっかけに繋がればと思います。

ゆずってください!!

活動で使いたいです。
おうちに眠っているものないですか？

- ①百人一首(2セット)
- ②UNO(2セット)
- ③デジタルカメラ(2台)
- ④オセロ
- ⑤アイロン

譲って頂ける方は
はぐ宛にお電話
ください!!



プリズムでは初めての外出プログラムを行いました



プリズムで初の外出プログラム「おやつを買いに行こう」を行ないました。その日食べる自分のおやつを買いに行くプログラムです。

今回は、シャトレーゼに買い物に行きました☆
選ぶことが苦手な方もいるため、あらかじめ聞いておいた5種類のおやつの写真から、好きなものを選んで買いにきました。

出発する前に、買い物ルールをクイズ形式で聞いたクラスでは、元気よく手が挙がり「静かにする」「走らない」「品物に触らない」「順番を守る」など笑顔で答える様子が見られ、子どもたちの待ちきれない気持ちが伝わってきて、スタッフも思わず笑顔になりました。

近くのシャトレーゼに到着。品物を選ぶところから、お釣りをもらうところまで子どもたちが行い、難しいところはスタッフがフォローしました。品物が見つからなくて困ってしまったり、ドキドキしながら支払いをしたり、買ったケーキを振り回してしまったり、おつりや品物をもらい忘れてしまったり...それでも子どもたちの顔は皆満足そうでした。

プリズム初の外出プログラムは笑顔で終わることができました。また皆さんとさまざまな場所に行くプログラムを考えていきたいと思えます。



職員投稿

子ども支援部署の齋藤です。

今回は、私にとっての「きょうしつ」についてお話します。

私の退職後の基本生活は現在、週3回ぼるでの仕事、週1回子ども医療センターでのボランティア活動です。それを始めたきっかけは、退職後の過「し」として特に大切だと言われている「きょうしつ」に「きょうしつ」があります。

「ご存知の方もいると思いますが、その意味は「今日用がある」、「今日行くところがある」のようです。今の私にとってそれを実践する場合は、ぼるやボランティアです。

現役時代は余り意識しなくても職場が自動的に「きょうしつ」、
“きょうしつ”を提供してくれます。現役時代は仕事に対する、ストレス、不安や悩みもありました。しかし今振り返ってみるとそれらもあるうちが華と思えてきます。

皆様にととの「きょうしつ」はどのようなものなのでしょうか。



ご出産 おめでとう!

誕生花は「カラタチ」、誕生石は「クリソプレーズ、トパーズ」

2016年11月9日生まれ

さそり座

かの有名な「野口英世さん」、
渡鬼子役と言えば・・・な「えなりかずきさん」と
同じ誕生日です！！

はぐスタッフの大田英江さんに、待望の第一子・
男の子が誕生しました。

母子ともに健康とのことです。

たくさんの愛に包まれて、元気に大きくなあ～れ♪



赤ちゃんが 生まれました



電車通勤をしていると、毎朝、同じ時間の電車

の同じ扉に並んで乗ってしまう。あれ？これはこだわり？なんて思っているが、同じように、毎日同じ車両に乗っている人たちがいる。みんないつしよだな。

私が通勤するルートに、いつも同じ場所に立っている体格のいい老人がいる。炎天下も雨の日も毎日。

端午の節句の時期には、兜をかぶり鎧をつけていた。ハロウィーンの時期には黒マントを羽織っていた。それが終わると言わずと知れたクリスマスシーズン。

当然サンタクロースに成りすましている。そしてそれが誰よりも似合う。趣味なのか仕事なのか、そこに本人の意思があるのか……。

そうです。御察しの通り、その老人はケンタッキーの前に立っているカーネルサンダーズさんです。毎日笑顔で街を見てくれています。笑顔の大切さを、朝せわしなく足早で通勤する中でいつも教えてもらっています。

そういうえ、知っていますか？カーネルサンダーズさんがかけているメガネは本物の老眼鏡だって事を。

そうです。知っていますか？カーネルサンダーズさんがかけているメガネは本物の老眼鏡だって事を。

そうです。知っていますか？カーネルサンダーズさんがかけているメガネは本物の老眼鏡だって事を。



♪波乗り所長のおしゃべりタイム♪

ありがとう Спасибо スパシーバ

今回は「ロシア語」のありがとう。雪が多くとても寒い国です。



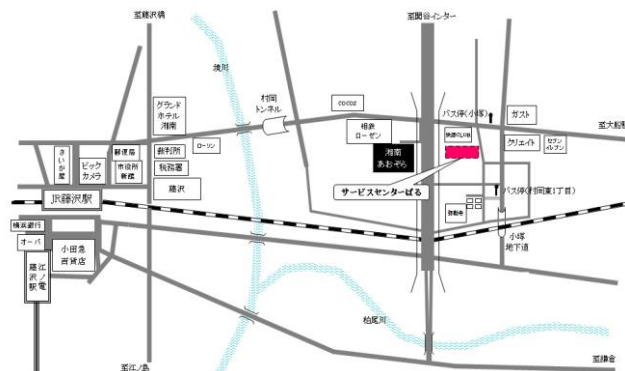
つみき、レゴブロック、
ニューブロック、フラ
レール、トミカビル
などを頂きました！



たくさんの方から、寄付を頂いています。いつも本当にありがとうございます。子ども支援部署、ヘルパー部署で、大切にに使わせて頂きます★

《サービスセンターぱる》

〒251-0013 TEL:0466-28-0909
藤沢市小塚592 FAX:0466-28-0959



【バスをご利用の場合】

<行きかた1>

藤沢駅北口より11番乗り場『大船駅行き』または『四季の杜行き』

『小塚』停留所から徒歩2分になります。

<行きかた2>

藤沢駅南口小田急百貨店前8番乗り場『渡内中央行き』もしくは『湘南鎌倉総合病院行き』(教養センター行きは×)に乗り、『村岡東1丁目』停留所から徒歩3分になります。

【徒歩で来所される場合】

藤沢駅北口より徒歩18分